

「お」の長音ではなくて「おお」であるという考えに基いたものであります。

(3) 「蹄」を「ひずめ」と書けということはどこにも規定してありません。文部省著作教科書では、これを「ひ」と「つめ」とに分解して考えることを必ずしも生徒に要求しないというたてまえで「ひずめ」と書いたままであって、これを分解して「ひづめ」と書くこともできます。

それでは一語に二種の表記法があって困るのではないかということになりますが、この類の語はきわめて少数で、それはわれわれが一般に使っているうちに自然に落ち着くものと考えられます。

第二集（昭二九・一〇）

17

【問】 「オーイ」という呼び声は「おおい」か「おうい」か。

【答】 普通のことばの長音は、エ列の長音もオ列の長音も、すべて「あ、い、う」の三母音字で表わしますが、感動詞は、とくに昔から「あ、い、う、え、お」の五母音字をすべて使って表わします。たとえば、

ああ いいえ ふうん ええ おお おおい

古典の例では、たとえば、

後から「おおい、おおい、田舎者、返せ、返せ」と申して
(狂言記 大日本国語辞典)

とあり、現行の教科書では多くは「おうい」となっていますが、どちらに書いても誤りではありません。

返事の「おお」も、古典に「おお」「おう」両方の用例があります。たとえば、

おお、それよ。人の話に聞きおきし、

(近松、加古教信七墓廻、大日本国語辞典)

おう、それ、それ。その伊勢本。伊勢本。

(狂言記、いの字、大日本国語辞典)

18

【問】 「大阪」を「おおさか」と書くよりも、むしろ「おうさか」と書くことに統一してほしい。

【答】 一つの希望意見としてはもっともなことですが、現行の規定では「おおさか」です。

19

【問】 「ぢ、づ」の例外の書き方は、固有名詞にも適用しますか。

次の地名の新かなづかいをお尋ねします。

【答】 現行のきまりでは――

- 1 適用します。
- 2 舞鶴^{づる} 会津^づ 国府津^こ 浅茅^ちが原

20

【問】 よう音（わたる音）の「や、ゆ、よ」を、ルビでも小さくすべきではないか。

【答】 ルビでも「や、ゆ、よ」「つ」を小さくすることは、原則としてはそうですが、実際にはむずかしい点がありましょう。

そこで、これは指導の上で注意を与え、そのつもりで読むことを教えるのが、現下の処置であると思います。

第三集（昭三〇・三）

21 長音の「う」

【問】 大多数の長音は「う」で表わすのに、少数の語だけ「お」を使うので、その使い分けがたいへんむずかしいです。それでは旧かなづかいを知らなければ新かなづかいが書けないではありませんか。

【答】 「大」などを「おう」としないで「おお」と書くのは、旧かなづかいが「おほ」であるからというわけではなく、その発音が長音でなくて（オオ）であるからという認定のもとにそう書くことになったのですが、

実際にはその発音の区別がたやすくつかないので、現代かなづかいにおける一つの悩みになっていることは事実です。しかし、その類の語は数が少なく、かつ漢字に隠れることが多いので、日常の用にはあまり不便がありません。長音とまぎらわしい語は次の二十語ぐらいですから、教師としてはこれだけを覚えておけばよいわけです。

おおい	(多い)	とお	(十)
おおきい	(大きい)	とおい	(遠い)
おおう	(覆う)	とおる	(通る)
おおかみ	(狼)	とおり	(次のとおり)
おおせ	(仰せ)	いきどおる	(憤る)
おおむね	(概ね)	とどこおる	(滞る)
こおり	(氷・郡)	ほお	(頬・朴)
こおる	(凍る)	ほのお	(炎)
こおろぎ	(虫の名)	もよおす	(催す)

22 助詞の「は」

【問】 わたしはことし小学一年のこどもの親ですが、ごく読本に「わたくしは」

とあるのを

「わたくしわ」

としてほしいと思います。当局のお考えはいかがですか。

【答】 助詞の「は・へ・を」は「わ・え・お」とすると、

あまり急激な改革のように感じられて、新かなづかい全体の実行にさしわりがあるようでしたから、それだけはもとのままになったのです。将来、世論が熟して「わ・え・お」がよいということになるまでは一般には、現行のきまりに従っていくべきです。

23 「会津」「国府津」の「津」のかなづかい

【問】 「国語問題問答」第二集（二〇ページ）に、固有名

詞の新かなづかいについて出ている中に

会 津 あいづ 国府津 こうづ

とありますが、わたしは、今日では「津」は死語と考えますので

会 津 あいず 国府津 こうづ

という一語と認めて、その「津」も「ず」のかなが書きたいと思います。

【答】 鉄道駅名のかながきのしかたについては、昭和二十三年に、運輸省と建設省地理調査部と、文部省との三者

会議の結果、問題の「津」のつく地名・駅名についても、これに意味があると認め、かつ、ふりがなの意識があると考えて「づ」とすることになりました。「こづ」も「やいづ」もその例の中にはいっています。

第四集（昭三一・一一）

24 「利雄」さんのふりがな

【問】 わたしのこども「利雄^{とし}」が、ことし一年生にあがりました。その「雄」のふりがなは、「を」でしょうか、「お」でしょうか。

【答】 旧かなづかいでは「雄^お」ですが、現代かなづかいでは「雄^お」です。

現代かなづかいでもテニヲハの「を」だけは「を」と書くことになっていますが、そのほかはすべて「お」と書くことになっています。

もっとも、旧かなづかいに目なれた人は「を」と書きたい感じがするのですが、世間一般、今日では、ふりがなにも「お」と書くようになっていきます。

25 「今日は」と「今晚は」

【問】 あいさつ語の「今日は」「今晚は」は、辞典（手もの言林）では感動詞としてあります。そうすると、これは一語と見て「こんにちわ」「こんばんわ」と書

くべきではありませんか。

【答】 お問合せのことは、現代かなづかいの適用問題の一つとして、昭和二十一年以来、一般に次のような方針がとられています。

副詞または接続詞といわれている「あるいは」「または」「では」などの「は」も、助詞の「は」に準じて「は」と書く。また、あいさつ語の「こんにちは」「こんばんは」などの「は」も、同様に「は」と書く。「きうり」か「きゅうり」か

【問】 「胡瓜」の表現について、現代かなづかいによれば、第三類ウ列よう音の長音として「きゅうり」と書き表わすものと思われませんが、(国語シリーズ8「現代かなづかいの意義」53ページ)、これは語原的にも「きうり」であり、ウ列よう音の長音ではないという意見があります。これについて、どのように説明したらよいのですか。

【答】 『胡瓜』は、語原も「黄うり」であると解され、かつその発音も昔は「キウリ」でしたが(和名抄)、今日では、「キウリ」と発音する地方と「キューリ」と発音する地方とがあるようになりました。そこで標準語の問題になりますが、現代かなづかい制定以後、国

定教科書に、後者の発音をとって「きゅうり」と書き、今日でも、その方針によっております。

なお、この問題は、現代かなづかいの問題以前の標準語の問題であります。

第五集(昭三二・一〇)

27 「は、へ、を」の除外例

【問】 かなづかいにおける「は、へ、を」の除外例を撤廃するということは考えられないものでしょうか。ローマ字では“wa, e, o”一本ですっきりとしています。

この除外例のために、低学年では相当に努力と時間とを費しています。この除外例をやめれば作文能力がうんとおびると信じます。

【答】 今日のところ、この除外例をやめて「わ、え、お」一本にすることは考えられておりません。「は、へ、を」の指導については、低学年のうち、初めは「わ、え、お」と書くのを多少寛大に見て、かながだいたい全部、正しく速く書けるようになってから、徐々に「は、へ、を」の除外例に導いていくような手心を施すことなども考えられましょう。児童は作文に「わたし」と書いても、読むものにはみな「わたしは」とあることに自分で気づくことなども、おおよそ、それと